

## 第1・2学年算数科学習指導案

日時 平成18年9月29日(金)5校時  
児童 1年 男1名 女1名 計2名  
2年 男2名 女1名 計3名  
授業者 佐藤美貴

### 【第1学年】

#### 1 単元名 たしざん

#### 2 単元について

第1学年の「数と計算」における目標は、「具体物を用いた活動を通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」である。

子どもたちは、加法計算について、これまでに1位数+1位数、 $10+1$ 位数などの計算で、繰り上がりのない場合を学習してきた。また、前単元では3口の加法の学習を行っているが、これは、本単元の繰り上がりのあるたし算の計算をしていく時の加数分解、被加数分解の作業に役立つ先行経験と言える。

本単元では、繰り上がりのある1位数+1位数の答えを求める際、被加数、加数のいずれかに着目し、着目した方の数の10に対する補数をとらえ、 $10+1$ 位数の答えを求める学習を行う。繰り上がりのある加法計算は、この単元で初めて学習するものであり、次学年以降で学習する加法計算の基礎となる、1年生の重要な内容である。

ここで扱う計算は、被加数、加数ともに1位数であるが、繰り上がることを「10といくつ」ととらえるところが重要となる。つまり、10に対する補数の見つけ方(10のつくり方)をどのようにしたらよいかという判断のしかたがポイントとなる。計算方法として、加数分解が一般的であるので、これを第一に取り上げている。あわせて、数えたしの段階から脱却できるよう「10のまとまり」をつくることを意識させるため、ブロックなどの操作を通して、被加数をそのままにして、加数を分解することを徹底させる必要がある。

しかし、計算の方法は被加数分解も考えられるので、計算に慣れるに従って10に対する補数のつくり方に弾力性をもたせ、子どもが考えやすい方法を用いることができるようにする。また、1位数に1位数をたして繰り上がりのある加法計算は加法計算の基礎となるものなので、カードによる練習やゲーム遊びにより習熟を図っていく。

なお、この学習は第13単元「たしざんとひきざん」、2年生の第2単元「何十の計算」へ発展していく。

本単元教材の関連を以下のものととらえた。【2年生と同じ】

#### 3 児童について

##### (1) 情意面

学習に対しては、意欲をもって取り組む子どもたちである。しかし、自分の取り組みに自信がなかったり、他への依頼心が強いため、友達の様子を見ながら学習する子どももいるので、自信をもって取り組ませる必要がある。学習場面では、話をよく聞くこと、発表は二人とも行うこと、はっきり話すことを重点に行っている。

##### (2) 認知面

子どもたちは、1から10までの構成(合成・分解)、繰り上がりのない1位数+1位数の計算を、暗算で求めることができる子と指や半具体物を用いないと、理解するまでに時間がかかる子がいて、

理解の差や処理の差がある。「あわせていくつ ふえるといくつ」の加法の合併・増加では、お話ししながらブロックを動かすことで、たし算になる場面のイメージと式の意味を理解する学習を行っている。

#### 4 指導にあたって

第1小單元では、10に対する補数が作りやすいように、被加数が9, 8, 7の場合を順に取り上げ、加数分解を指導していく。答えが10より大きくなりそうだという見通しをもとに、ブロックや図を有効に用いながら、10のまとまりを作るよさに気づかせ、加数を分解して「10といくつ」の和として結果を求める計算の手順をつかめるように操作活動と結び付けながら理解させていきたい。また、最後に言葉でまとめ、理解を深めていきたい。

第2小單元では、被加数分解の方法もあることを取り上げる。ここでは、既習経験を生かして加数分解の考え方が出てくると思われるが、被加数の3と加数の9を見比べて、被加数を分解した方が考えやすいというものなども出てくると思われる。その場合は、どちらの考え方で答えは一致することを確認した上で、いずれも10のまとまりをつくって求めることをおさえる。また、「10といくつ」のとらえ方はいろいろあることを理解させ、自分の考えやすい方法で計算してよいことを知らせる。

第3小單元では、計算の習熟を図る。計算カードによる練習を通して、ある程度反射的に答えが求められるようにしていく。また、答えの数によって計算カードを分類する活動などを通して、1つの数を他の2つ数の和とみる見方を養うようにする。大きさ比べ、カード取り、ビンゴなどのゲーム活動を通して計算の習熟を図っていきたい。

本單元において、繰り上がりのある計算のしかたを定着させるために、ブロックを使った操作活動をさせ、操作した手順を言葉でまとめ、形式化していく流れを大切にしていきたい。そこで、自分の言葉で話しながらブロックを操作させていきたい。

子どもの実態から、合成・分解の理解は、まだ不十分な子もいるので、具体物や半具体物を使った操作活動を多く取り入れ、理解を促していきたい。

#### 5 単元の目標

1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを理解し、それを用いることができる。

[ 関心・意欲・態度 ] ・ 数の構成や10に対する補数などの学習経験を生かして、1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを進んで考えようとする。

[ 数学的な考え方 ] ・ 20までの数の構成や10に対する補数に着目して計算のしかたを考える。

[ 表現・処理 ] ・ 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算ができる。

[ 知識・理解 ] ・ 1位数どうしの繰り上がりのある加法計算のしかたを理解する。

## 6 指導計画 【第1学年(12時間)】

小単元	時	目標	学習活動	おもな評価規準
9 + 4 の けい さん	1 ・ 2 ・ 3	1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面を読み取り、立式する。</li> <li>9 + 4 の計算のしかたを考える。</li> <li>加数分解による計算方法をまとめる。</li> <li>被加数が9の場合の計算に取り組み、理解を深める。</li> </ul>	<p><b>考</b>繰り上がりのあるたし算のしかたについて、10のまとまりに着目して考えている。</p> <p><b>表</b>加数分解による計算ができる。</p> <p><b>知</b>加数分解による計算のしかたを理解している。</p>
	1 本 時 ・ 2	1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、加数を分解して計算する方法の理解を確実にする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>被加数が8, 7の場合の計算のしかたを考える。</li> <li>加数分解による計算方法について理解を深める。</li> <li>計算練習に取り組む。</li> </ul>	<p><b>表</b>加数分解による計算が正確にできる。</p> <p><b>知</b>被加数が8, 7の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。</p>
2 3 + 9 の けい さん	1 ・ 2	1 位数どうしの繰り上がりのある加法計算で、被加数を分解して計算する方法についても理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面を読み取り、立式をする。</li> <li>3 + 9 の計算のしかたを考える。</li> <li>被加数を分解して計算する方法についても理解する。</li> <li>計算練習に取り組む。</li> <li>文章題を理解する。</li> </ul>	<p><b>考</b>被加数、加数の大小に着目しながら、10のまとまりをつくることを考えている。</p> <p><b>知</b>被加数分解による計算のしかたを理解している。</p>
3 か あ ど れ ん し ゅ う	1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	加法の計算能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算カードを使って、一人で練習したり、答えの表にカードを並べたりする。答えごとにカードを黒板に並べ、並び方について考える。</li> <li>大きいカードを出した方が勝ちの「おおきさくらべ」ゲームを行う。</li> <li>答えに合うカードを見つける「カードとり」ゲームを行う。</li> <li>ますをぬる「ビンゴ」ゲームを行う。</li> <li>トランプの神経衰弱に似た「カードあわせ」ゲームを行う。</li> </ul>	<p><b>関</b>計算カードを使った練習に取り組もうとしている。</p> <p><b>表</b>繰り上がりのある1位数どうしの加法計算が正確にできる。</p>

## 7 本時の指導

### (1) 目標

加数分解による計算が正確にできる。

被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解する。

### (2) 具体の評価規準

	A	B	C (具体的な手立て)
表現・処理	加数分解による計算が速く正確にできる。	加数分解による計算が正確にできる。	被加数に着目させて、教師と一っしょに加数分解による計算のしかたを唱えることができるようにする。
知識・理解	被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解し、さらに加数分解による計算方法について理解を深めている。	被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを理解している。	被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくれればよいことを、ブロック操作や計算図によって理解させるようにする。

(3) 第1学年展開案

段階	学習活動	・指導上の留意点 指導 評価	形態
つかむ 7	<p>1. 問題を把握する。</p> <p>あさがおのたねを きのう8こ、きょう3ことりました。ぜんぶでなんことりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな問題か把握する。</li> <li>・前時までの問題との共通点, 相違点を見つける。</li> </ul> <p>2. 課題を把握する。</p> <p>8 + 3のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <p>3. 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・答えの見通しを立てる。</li> <li>・答えが10より大きくなりそうだ。</li> <li>・解決の方法の見通しを考える。</li> <li>・ブロックを使って数える。</li> <li>・くだもの計算</li> </ul>	<p>情景図を掲示し、問題把握をしやすいようにする。</p> <p>両学年の問題を提示し、双方の学習内容に関心をもたせ、1, 2年共に学び合う意識を高めさせる。</p> <p>既習の学習と共通点と相違点を見つけるよう促し、本時の課題につなげる。</p> <p>今まで使った方法を想起させ、どの方法で取り組むか考えるようにさせる。</p> <p>10のまとまりを手がかりにして、確かめさせる。</p>	共通導入
かいけつ 5	<p>4. 自力解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブロック</li> <li>・くだもの計算</li> </ul>	<p>数えたしをしている子どもには、10のまとまりをつくった前時の学習の掲示物を参考にさせる。</p> <p>ブロック操作で解決した子どもには、くだもの計算にも挑戦させる。</p>	直
まなび あい 10	<p>5. 学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを発表する。</li> </ul>	<p>被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくればよいことをブロック操作やくだもの計算からとらえられるようにする。</p> <p>どちらの方法も、10のまとまりといくつの形で計算していることを理解させる。</p> <p>被加数が8の場合でも、10のまとまりをつくればよいことを理解しているか。</p> <p>(観察)知</p>	接
まとめ 3	<p>6. 学習のまとめ</p> <p>8 + 3のけいさん(も)、 10のまとまりをつくってかんがえる。</p> <p>8は あと2で10。 3を 2と1に わける。 8に 2をたして 10。 10と1で11</p>	<p>既習の内容と関連づけてまとめる。</p>	
れんしゅ う 17	<p>7. 練習問題を解く。</p>	<p>類似問題に取り組みせ、本時の学習の定着を図る。</p> <p>加数分解による計算ができたか (学習シート・観察)表</p>	間接
ふりかえり 3	<p>8. 学習内容を振り返る。</p>	<p>1年生と2年生が学習内容を伝え合い、その取り組みを認め合えるようにする。</p>	共通終末

## 8 板書計画

<p><b>めあて</b></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8 + 3 のけいさんのしかたをかんがえよう。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>情景図</b></p> </div> <div style="width: 45%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>もんだい</b></p> <p style="margin-top: 20px;">しき 8 + 3</p> <p>こたえ 11こ</p> </div> </div>	<p><b>まとめ</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>8 + 3 のけいさん <b>も</b></p> <p>10 の <b>まとまり</b> をつくってかんがえる。</p> <p>8 は あと <b>2</b> で 10</p> <p>3 を <b>2</b> と <b>1</b> に わける。</p> <p>8 に <b>2</b> をたして <b>10</b></p> <p>10 と <b>1</b> で <b>11</b></p> <p style="text-align: center;">8 + 3 = 11</p> <p style="text-align: center;">^</p> </div>
<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ぶろっく</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> <p style="font-size: 10px;">↑</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ぶろっくす</p> <div style="border: 1px solid black; width: 150px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> <div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 20px; margin: 5px auto;"></div> <p style="font-size: 10px;">↑</p> </div> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">くだものけいさん</p> <p style="margin-top: 10px;">8 + 3 = 11</p> <p style="text-align: center;">^</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">れんしゅう</p> <p style="margin-top: 10px;">(1) 8 + 5</p> <p style="margin-top: 10px;">(2) 8 + 6</p> </div> </div>

## 9 座席表

1 年生黒板

## 第1・2学年算数科学習指導案

日時 平成18年9月29日(金)5校時  
児童 1年 男1名 女1名 計2名  
2年 男2名 女1名 計3名  
授業者 佐藤美貴

### 【第2学年】

#### 1 単元名 ひっ算のしかたを考えよう(たし算とひき算のひっ算)

#### 2 単元について

第2学年の「数と計算」における目標は、「具体物を用いた活動を通して、数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方について理解できるようにするとともに、加法及び減法の意味について理解し、それらの計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」である。

子どもたちは、既習の2位数+2位数の筆算では、一の位で繰り上がる筆算のしかたを学習し、2位数-2位数の筆算では、一の位へ繰り下がりのある筆算のしかたを学習してきている。これらは、加減の筆算の基本的な考え方や方法である。形式的な計算方法に偏らないように、計算のしかたについて既習事項をもとにして、ブロックや図を操作しながら自ら考え出すことができるようにしたり、答えを具体的な量の大きさと関連づけながら求めたりすることを指導してきた。

本単元では、加法は加数、被加数ともに2位数までで繰り上がりが2回になる場合までの筆算、減法は3位数から1,2位数をひいて繰り下がりが2回に及ぶまでの場合の筆算を学習する。その際、繰り上がりが2回ある加法でも、繰り下がりが2回ある減法でも、既習の筆算と同様に位ごとの基礎計算を繰り返すことによって答えを求めることができることや、繰り上がる位や繰り下がる位が変わっても同じ考え方で処理できることを理解させることが重要である。

本単元の学習は、第3学年5単元「たし算とひき算の筆算」の3位数の加減の筆算の学習へと発展していく。

本単元教材の関連は、東京書籍教師用指導書研究編1年P184参照

### 3 児童について

#### (1) 情意面

男女とも活気があり、協力して活動する。学習に意欲をもち一生懸命取り組もうとする。一方、集中力に欠ける子どももいる。これまでの学習への取り組みについてみると、どの子どもも自力解決は自分なりに行えるが、自分の考えの発表は、考えを整理して話したり、筋道を立てて話したりすることが弱い。

#### (2) 認知面

レディネステストの結果を見ると、2位数のたし算では、繰り上がりがあると繰り上がった1をたし忘れてしまう子どもや1位数の計算でつまずいている子どもがいる。また、減数が1位数で繰り下がりのあるひき算が十分に定着していない子どももいる。

NRTの結果は、「数と計算」「量と測定」「図形」の3領域とも全国正答率を上回っている。

### 4 指導にあたって

本単元は、子どもたちの実態をもとに、加法・減法の筆算の原理や手順の理解を進める場合に加法では、

十の位で繰り上がりのある筆算

一の位，十の位でともに繰り上がりのある筆算

十の位で波及的に繰り上がりのある筆算

減法では、

十の位へ繰り下がりのある筆算

一の位，十の位へ繰り下がりのある筆算

一の位へ繰り下がるために、十の位へも波及的に繰り下がる筆算

など、細かなステップをふまえて指導を進めていきたい。

は、既習の2位数の加減の筆算の原理や手順などを基礎として、類推的に考えさせていけば、理解することができる。は、初めての内容なので数カードの操作や図などを活用して計算の方法の理解を確実なものにしていきたい。

繰り上がりや繰り下がりが2回連続する筆算や、波及的に繰り上がったたり繰り下がったりする筆算は、子どもたちにとって、比較的つまずきやすい場面と考えられる。したがって、位ごとの計算を丁寧に扱い、常に10のまとまりを意識させ、十進位取り記数法の原理をもとに、数カードの操作や図などを活用して計算方法の理解を確実なものにしていきたい。また、繰り上がりや繰り下がりをおぼえたり、その処理を誤ったりするような不注意によるミスを防ぐために、答えの見積もりもさせるようにしていきたい。

### 5 単元の目標

筆算形式による2位数+1位，2位数=3位数，3位数-1，2位数=2位数の計算のしかたについて理解し、それをを用いる能力を高める。

[ 関心・意欲・態度 ] ・既習のよさを認め、進んで既習の筆算のしかたを活用しようとする。

[ 数学的な考え方 ] ・既習の筆算から類推して、筆算形式による2位数+1，2位数=3位数，3位数-1，2位数=2位数の筆算のしかたを考える。

[ 表現・処理 ] ・筆算形式による2位数+1，2位数=3位数，3位数-1，2位数=2位数の計算ができる。

[ 知識・理解 ] ・筆算形式による2位数+1，2位数=3位数，3位数-1，2位数=2位数の計算のしかたを理解する。



## 6 指導計画 【第2学年(10時間)】

小単元	時	目標	学習活動	おもな評価規準
1 た し 算	1	2位数 + 2位数 = 3位数(百の位へ繰り上がりあり)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面をとらえ、立式について考える。</li> <li>83 + 46の筆算のしかたを考える。</li> <li>筆算のしかたをまとめる。</li> </ul>	<p><b>考</b> 既習の加法との違いをとらえ、既習の筆算の原理・手順を適用して、2位数 + 2位数 = 3位数(百の位へ繰り上がりあり)を考えている。</p> <p><b>関</b> 筆算のよさを認め、進んで既習の筆算のしかたを活用しようとしている。</p>
	2 本 時	2位数 + 2位数 = 3位数(十、百の位へ繰り上がりあり)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>76 + 58の筆算のしかたを考える。</li> <li>筆算のしかたをまとめる。</li> <li>上記の型と、52 + 78の型の計算練習をする。</li> </ul>	<p><b>考</b> 2位数 + 2位数 = 3位数(十、百の位へ繰り上がりあり)の筆算のしかたを既習をもとに考えている。</p> <p><b>表</b> 2位数 + 2位数 = 3位数(十、百の位へ繰り上がりあり)の筆算ができる。</p>
	3	2位数 + 1, 2位数 = 3位数(百の位へ波及的繰り上がりあり)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>46 + 57, 93 + 8の筆算のしかたを考える。</li> <li>筆算のしかたをまとめる。</li> <li>上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	<p><b>考</b> 2位数 + 1, 2位数 = 3位数(百の位へ波及的繰り上がりあり)の筆算のしかたを既習をもとに考えている。</p> <p><b>表</b> 2位数 + 1, 2位数 = 3位数(百の位へ波及的繰り上がりあり)の筆算ができる。</p>
2 ひ き 算	1	3位数 - 2位数(十の位へ繰り下がりあり)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面をとらえ、立式について考える。</li> <li>129 - 53の筆算のしかたを考える。</li> <li>筆算のしかたをまとめる。</li> <li>上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	<p><b>考</b> 既習の減法との違いを認め、既習の筆算の原理・手順を適用して、3位数 - 2位数(十の位へ繰り下がりあり)を考えている。</p>
	2	3位数 - 2位数(一、十の位へ繰り下がりあり)の筆算のしかたの理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>146 - 89の筆算のしかたを考える。</li> <li>筆算のしかたをまとめる。</li> <li>上記の型の計算練習をする。</li> </ul>	<p><b>考</b> 3位数 - 2位数(一、十の位へ繰り下がりあり)の筆算のしかたを既習をもとに考えている。</p> <p><b>表</b> 3位数 - 2位数(一、十の位へ繰り下がりあり)の筆算ができる。</p>

	3 ・ 4	3 位数 - 1, 2 位数 (一, 十の位へ波及的 繰り下がりあり) の筆 算のしかたの理解し、 その計算ができる。	・ 1 0 2 - 6 5 の筆算のしか たを考える。 ・ 筆算のしかたを考える。	<b>考</b> 3 位数 - 1, 2 位数 (一, 十の位へ波及的繰り下が りあり) の筆算のしかた を既習をもとに考えてい る。 <b>表</b> 3 位数 - 1, 2 位数 (一, 十の位へ波及的繰り下が りあり) の筆算ができる。
	5	3 位数 - 2 位数の減 法を適用して問題を 解決する。	・ 文章題に取り組む。	<b>表</b> 3 位数 - 2 位数の減法を 適用して、問題を解決す ることができる。
ま と め	1	学習内容を確実に身 につける	・ 「力をつけよう」に取り組む。	<b>表</b> 学習内容を正しく用い て、問題を解決すること ができる。
	2	学習内容の理解を確 認する。	・ 「たしかめよう」に取り組む。	<b>知</b> 基本的な学習内容につい て理解している。

## 7 本時の指導

### (1) 目標

2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上がりあり) の筆算のしかたを既習をもとに考える。

2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上がりあり) の筆算ができる。

	A	B	C (具体的な手立て)
数学的な 考え方	2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上が りあり) の筆算のしかた を理解し、説明できる。	2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上が りあり) の筆算のしかた を既習をもとに考える。	2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上が りあり) の筆算を数カー ドの操作をもとに考えさ せるようにする。
表現・処理	2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上が りあり) の筆算が速く正 確にできる。	2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上が りあり) の筆算ができる。	2 位数 + 2 位数 = 3 位数 (十, 百の位へ繰り上が りあり) の筆算を数カー ドの操作をもとに考えさ せ、正しくできるように する。

( 3 ) 第 2 学年展開案

形態	段階	学習活動	・指導上の留意点 指導 評価																											
共通導入	つかむ 7	<p>1. 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                     あさがおのたねを きのう76こ、きょう58こ                      とりました。ぜんぶでなんことりましたか。                 </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな問題か把握する。</li> <li>・立式する。</li> </ul> <p>2. 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <math>76 + 58</math>のようなひっさんのしかたを考えよう。                 </div> <p>3. 見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・答えの予想をする。</li> <li>・解決の方法の見通し                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆算</li> <li>・数カード</li> <li>・数図</li> </ul> </li> </ul>	<p>両学年の問題を提示し、双方の学習内容に関心をもたせ、1, 2年共に学ぶ意識を高めさせたい。</p> <p>前時までのたし算と比較させ、本時は2位数+2位数で十, 百の位へ繰り上がりのある筆算のしかたを考えることに気づかせ、課題意識がもてるようにする。</p> <p>答えの見通しをすることにより、自力解決の大きな間違いを防ぐことができるようにする。</p>																											
		<p>4. 自力解決する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筆算</li> <li>・数カード</li> <li>・数図</li> </ul>	<p>前時までの方法や手順を想起させて自力で解決させる。</p> <p>本時は、十, 百の位へと2回繰り上がりがあるので、数カードを操作させ筆算の手順の理解を深めるようにしたい。</p> <p><math>2\text{位数} + 2\text{位数} = 3\text{位数}</math> (十, 百の位へ繰り上がりあり)の筆算のしかたを既習をもとに考えているか。(観察・学習シート)考</p>																											
		<p>5. 学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを発表する。</li> </ul>	<p>数カード操作と筆算のできた子どもは、数図で答えを求めさせたい。</p> <p>解決の手順を自分の言葉で話させる。</p> <p>数カード, 筆算と関連を図りながら、ことばでまとめていく。</p>																											
直接	まとめ 5	<p>6. 学習のまとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> <td>くらいをたてに</td> <td>そろえて書く。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">76</td> <td>はじめに、</td> <td>一のくらい <math>6 + 8 = 14</math></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">+ 58</td> <td></td> <td>十のくらいに1くり上げる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">134</td> <td>一のくらいは</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td></td> <td>つぎに</td> <td>十のくらい くり上げた1と7で8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><math>8 + 5 = 13</math></td> </tr> <tr> <td></td> <td>百のくらいに</td> <td>1くり上げる。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>十のくらいは</td> <td>3 百のくらいは1</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td><math>76 + 58 = 134</math></td> </tr> </table> </div>	1	くらいをたてに	そろえて書く。	76	はじめに、	一のくらい $6 + 8 = 14$	+ 58		十のくらいに1くり上げる。	134	一のくらいは	4		つぎに	十のくらい くり上げた1と7で8			$8 + 5 = 13$		百のくらいに	1くり上げる。		十のくらいは	3 百のくらいは1			$76 + 58 = 134$	<p>子どもの発表をもとに、まとめる。</p> <p><math>2\text{位数} + 2\text{位数}</math>で、十, 百の位へ2回繰り上がりのある筆算でも、既習の筆算のやり方と同じであることを確認する。</p>
1	くらいをたてに	そろえて書く。																												
76	はじめに、	一のくらい $6 + 8 = 14$																												
+ 58		十のくらいに1くり上げる。																												
134	一のくらいは	4																												
	つぎに	十のくらい くり上げた1と7で8																												
		$8 + 5 = 13$																												
	百のくらいに	1くり上げる。																												
	十のくらいは	3 百のくらいは1																												
		$76 + 58 = 134$																												

問 接	れん しゅ う 8	7. 練習問題を解く。	筆算の手順を唱えながら計算するようさせる。 2位数 + 2位数 = 3位数(十, 百の位へ繰り上がりあり)の筆算ができる。(学習シート)表
共 通 終 末	ふり かえ り 3	8. 学習内容を振り返る。	2年生と1年生が学習内容を伝え合い、その取り組みを認め合えるようにする。

## 8 板書計画

めあて

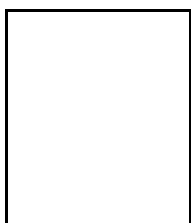
76 + 58のようなひっさんのしかたをかながえよう。



もんだい

数カード

ひっさん



しき

$$76 + 58$$

答え 134こ

百	十	一
	10	1
	10	1
	10	1
	10 10	1
	10 10	1 1
	10	1
	10	1
	10	1 1
	10	1 1
	10	1 1
	10 10	1 1
	10 10	1 1 1
	10 10 10	1 1 1
	10 10 10	1 1 1
	10 10 10	1 1 1
1	3	4

まとめ

くらいをたてにそろえて書く。

$$\begin{array}{r} 76 \\ + 58 \\ \hline 1 \end{array}$$

はじめに、一のくらい

$$6 + 8 = 14$$

十のくらいに1くり上げる。

$$\begin{array}{r} 76 \\ + 58 \\ \hline 4 \end{array}$$

一のくらいは4

つぎに十のくらい

くり上げた1と7で8

$$\begin{array}{r} 76 \\ + 58 \\ \hline 134 \end{array}$$

$$8 + 5 = 13$$

百のくらいに1くり上げる。

十のくらいは3 百のくらいは1

$$76 + 58 = 134$$